「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。
「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

News CATY
ニュース　キャティ

２０１３年11月　第68号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　平野富康

チャレンジ精神が大事

2週間現地で研修
スプリングフィールド大学 異文化を学ぶ

國學院大學北海道短期大学部と教育連携している米国スプリングフィールド大学へ10月20日から11月2日までの2週間、健康体育やスポーツ科学を中心とした健康体育コースの研修に参加しました。
私は、短大部では国文学科2年生です。出発前に様々な人から国文学科の学生が「健康体育コースの研修で何が学べるのか？」という質問を投げかけられました。今回、この健康体育コースの短期研修メンバーに入ることで期待と不安が増したのを覚えています。
研修に行く前の私にとって「国文学科の学生」というのは大変重いプレッシャーでした。しかし、スプリングフィールド大学での生活の中で自分が「国文学科の学生」であることがプレッシャーになることは全くありませんでした。私が接したアメリカの学生は、自分が学んでいる学問および大学に対して強い誇りを持っており、また新たに学ぼうとしている人に対してとても肯定的でした。
スプリングフィールド大学での授業内容が短大部に戻ってから役に立つかどうかは問題ではなく、知らない分野だからこそ貪欲に人一倍学ばなければならないとも思いました。そのようなことから「国文学科の学生」というプレッシャーは、私の行動力に変わりました。
また積極的に行動することで、プログラムになかった授業やイベントにも参加できました。もちろん、アメリカの学生や大学の雰囲気、授業形態、内容などをスプリングフィールド大学の授業を受講することで日米の違いを体験的に学ぶことができました。
短い期間でしたが、研修という経験を通して行動することで、学ぶことの多さに気付き、「何事もやってみなければ判らない」と実感しました。
（国文学科２年／飯沼瑞生）

英語の重要性肌で感じる
総合教養学科がＩＣＤ 樽商大准教授が講演

総合教養学科では11月16日、ホテル三浦華園でＩＣＤ（インターナショナル・コミュニケーション・デイ）を開催した。ＩＣＤは毎年恒例の催しで、異文化圏の人々とのコミュニケーションを考え、学ぶ機会である。今年はスプリングフィールド大学（米国マサチューセッツ州）での短期研修のプレゼンテーションと、小樽商科大学のイプラヒム・ファロウク准教授＝写真＝を講師に迎え、「グローバル化された世界で日本人が英語で発信するには」と題して講演とワークショップを行った（使用言語は英語）。
スプリングフィールド大学短期研修のプレゼンテーションは研修期間の2週間で学んだ専門知識や現地学生との交流、寮生活についての内容で、「研修を通して積極性を身に付け、新たな目標が見つかった」との報告があった。
講演とワークショップでは、まずファロウク准教授から母国ガーナ（公用語は英語）の歴史・文化の紹介があった。その後「なぜ英語は21世紀のグローバル・ランゲージとして重要か」「今日のグローバリゼーションをどう活用するか」などの質問があり、ゲストティーチャーとのグループワークを通して答えを考え発表する活動を行った。
また、「今日のグローバリゼーションを最大限活用しよう」「グローバルな世界で適切な判断を」「広い世界で一番クールなのは自分、そうでなければなぜ生きているのか？」といった力強いメッセージが伝えられた。
（総合教養学科准教授／二ノ宮靖史）

貴重な経験を将来に
「子育てサロン」に参加して

私は、10月18日に開催された「子育てサロン」に参加しました。「子育てサロン」は毎月1回行われ、滝川市近郊から10組程度の親子が訪れています。
当日は、1歳から5歳までの子ども達と保護者の方々9組と共に90分間楽しく過ごしました。
私の担当は、手遊び（いとまき・ねこの子・きらきら星）、ボール転がし、しっぽ取り遊びなど身体を使った遊びが中心でした。1年の授業で遊び歌を多く学びましたので、その中から幅広い年齢層で楽しめる遊び歌を選曲しました。最初は、一緒に楽しんでくれるか心配と不安でいっぱいでしたが、とてもニコニコして喜んでくれている様子で安心しました。
1年、2年の実習以外で子ども達と触れ合う機会が少ないので、一人ひとりの表情、体の動きなどを観察でき、勉強になりました。
また、普段聞くことができない保護者の方々とスタッフの育児相談の内容、保護者間での子育ての悩みなどを伺える貴重な場であると思いました。
将来、この経験を保育者として活かしていきたいと思います。（幼児・児童教育学科2年／伊藤小雪）

稲の脱穀と精米にチャレンジ
4回目の稲作体験

11月5日、4回目の稲作体験を行いました。今回は、前回乾燥させた稲の脱穀・精米をしました。
手動のものと自動式の2種類の機械を準備していただきました。手動のものは、足でペダルをこぎながら、稲を上下に動かし脱穀します。農家のみなさんがスムーズに作業をしているので簡単なのかと思い実際にやってみると、思ったよりペダルが重く、それをしながら手を動かすのは難しかったです。だからペダルをこぐ人と稲を動かす人の二手にわかれて協力してやりました。
精米は木の板に脱穀したお米をのせて木の棒ですりつぶすようにこすり合わせます。力を入れないともみ皮がとれません。さらにむいたもみ皮とお米を分ける作業も大変でした。手動の大変さが、このような農家の方々の苦労があるからこそおいしいお米を食べることができるのだと思いました。感謝の気持ちを忘れず今日もご飯をいただきます。（幼児・児童教育学科2年／山田さくら）

出来上がった精米

「おはなしカーニバル」に参加して
充実感あふれる催しに

なかそらち図書館ネットワークと幼児保育コースの協働事業である「おはなしカーニバル」は今年で6年目を迎えました。
今回は「みんなあつまれ！おはなしワールド」と題し、私は手遊びやパネルシアター、大型絵本、手品を発表するグループに入りました。できるだけ多くの子どもたちに対して積極的に触れ合うことを目標に、授業の空き時間などを使って話し合いや練習を重ねました。自分の意見を気兼ねなく言い合えるグループであったため、発表内容もいち早く完成させることができました。
本番は2回公演で、たくさんの子どもたちが遊びに来てくれました。絵本やパネルシアターに集中し、学生の声掛けにも子どもたちは素早く反応してくれました。「ミツヤサイダー」という手遊びでは、私たちのグループが創作したヒーロー「シュワレンジャー」になりきって発表しました。知っている子も知らない子も私たちの真似をし楽しんでいる姿が見られ、演じている私たち自身も充実感を味わうことができました。
本番当日には突然内容を変更しなければならなくなり、焦ってしまう場面もありました。しかし保育所や幼稚園の実習を通して学んだ、何事にもチャレンジしていく大切さや臨機応変に対応する力を今回のおはなしカーニバルで生かし、成功に繋げることができました。このイベントを通しての貴重な体験をこれから子どもたちと関わっていく中で活かしていきたいと思います。（幼児・児童教育学科1年／細貝沙季）

力を合わせ親睦深めた体育祭

11月10日に実施した体育祭は、國短の学生がスポーツを通じて学科や学年の違いなど関係なく絆を強めてもらいたい、という目標を持って開催しました。
毎年、1年生が中心になって運営していて、今年は綱引き・六人七脚・男女別でフットサルやバドミントン、リレーなどを各学生会メンバーが企画しました。今年の学生会1年は人数が少なく、企画・準備などの場面で大変だったことが沢山ありましたが、メンバーが本当に助けてくれたので当日までに準備をすることができました。
当日は、朝から大雨が降っていたので参加人数に不安がありましたが、多くの学生や先生方が朝早くから来てくれました。競技も順調に行われ、選手を含め学生会のメンバーも一緒に楽しめることができました。
今年の体育祭も多くの方々からの支援を頂き無事に開催でき、成功させることができました。本当にありがとうございました。（学生会1年代表・幼児・児童教育学科1年／難波光平）

早坂くんら海老沢賞
作文コンテスト表彰式 全国から1228点

第11回作文コンテストの表彰式が、10月26日に行われた。テーマは「家族」または「そだてる」で、中空知の小中学生、道内の高校生、そして滝川市の姉妹都市である名護市の小中高校生から26校1228人の応募があった。審査の結果海老沢賞4人、優秀賞10人、奨励賞21人が選ばれた。
表彰式には海老沢賞と優秀賞を受賞した10人が集まった。なお、この入賞者たちの作品集は1月刊行予定となっている。

◆海老沢賞
▽「ぼくの家ぞく」浦臼小3年・早坂奎人▽「私の家の家族」上砂川中央小6年・深野巳尋▽「家族の支え」明苑中3年・河島怜香▽「育てる」浦河高3年・可知佑月

◆優秀賞
【小学生低学年の部】
▽「妹がすきなこと」滝川第一小2年・梅津日菜▽「あさがおをそだてたこと」滝川第一小2年・瀧山葵
【同高学年の部】
▽「家族のありがたみ」上砂川中央小6年・鈴木彩乃▽「『そだてる』について思った事」東小4年・村椿彩華
【中学生の部】
▽「『想像力』を育てる」明苑中2年・鈴木ありす▽「私の妹」名護中2年・比嘉穣▽「バトン」新十津川中3年・斉藤真奈
【高校生の部】
▽「お母さん」清里高3年・斉藤美空▽「お母さんありがとう」置戸高1年・澤目菜々▽「イネを育てる」旭川工業2年・岡田耕亮

◆奨励賞
【小学生低学年の部】
▽「かわいい弟」浦臼小2年・青田椛▽「ぼくの弟はおもしろい」浦臼小2年・所雅人▽「私の大切な物」浦臼小3年・庄野優月
【同高学年の部】
▽「姉の存在」上砂川中央小6年・佐藤麻美子▽「幸せな家族」滝川第一小4年・渡邊珠李
【中学生の部】
▽「みんな家族」明苑中3年・稲葉琴子▽「家族」同・尾下晃一▽「そだてることの大変さ」同2年・木本千尋▽「性格」同2年・前川伊織▽「チームワークをそだてる」同1年・藤池児衣理▽「母にとっての私　私にとっての母」歌志内中2年・村瀬野乃夏
【高校生の部】
▽「育てるための鍵」置戸高2年・石井柚衣▽「自分にとって」旭川工業2年・中島真▽「お父さん」同・渡邉恵美▽「自分の家族」同・中村優佑▽「家族とは」同1年・大野丈祐▽「たった一人の」旭川実業2年・永井風花▽「そだてる」遠軽高3年・高井優佳▽「命を育てる」滝川西高3年・池田舜▽「自分も成長」洞爺高2年渡部舞▽「家族」函館稜北高3年・阿部真紀

子育てサロン「ありす」

子育て中のお父さん、お母さん、お子さんのための広場です。お子さんを連れて、気軽に遊びに来て下さい。

対象者　おおむね０～４歳未満の子どもとその家族
参加料　１家庭あたり100円（保険料を含む）
申し込み　開催日の前日15:00まで（先着30人）

次回開催日　12月20日(金)
テーマ：クリスマス会

☆平成26年度入試情報☆

○特別指定校制学校推薦　第Ⅱ期
○指定校制学校推薦　第Ⅱ期
○公募制学校推薦　第Ⅰ期
○幼児・児童教育学科対象特別推薦
○自己推薦　第Ⅱ期
○國學院大學との併願型　第Ⅰ期

○受付期間：H25.11.25～12.6
○選　考　日：H25.12.14
○合格発表：H25.12.21

※詳細・お問合せ、資料請求は入学係まで（TEL0125-23-4111）。進学相談・校舎案内は随時受付

総合教養学科研究発表会

12月7日午後1時から、研究発表会を開催します。これは、例年、ゼミナールⅠおよびⅡで学生が研究をした中から、優れたものを発表するもので、興味をひく内容で、好評を得ているものです。市民の方々をはじめ、どなたでも参加していただける内容です。会場は三浦華園で、一般の方々の参加をおおいに歓迎いたします。
本年度は、「江部乙駅舎を用いた地域活性化」「サッカーを用いたテーマ型コミュニティの活性化」「学生の地域活動を題材とした広報の研究」「財務データ及び主観的評価によりポートフォリオ作成」「200名の本学学生の滝川での生活の実態と満足度」「憲法96条―憲法改正の発議、96条先行改正の意味と憲法とは何かを考える」「『普通』とはなにか　をめぐって」「短大生と勉強、アルバイト」「インターネット上の顔文字について」などを予定しております。
▽日時／平成25年12月7日午後1時
▽会場／ホテル三浦華園

国文学科卒論発表会

上代から近代までの日本文学と漢文学の研究発表、詩・小説・戯曲などの創作発表を行います。学生が2年間の研究・創作の成果を発表いたします。一般公開、参加費無料です。一般の方も、ぜひご来場ください。
▽日時／平成25年12月18日午後1時
▽会場／ホテルスエヒロ